

No.	めざす子ども像	評価計画			自己評価						学校関係者評価		改善計画
		重点目標	取組の重点項目	評価指標	R6アンケート			R5アンケート			結果と課題の説明	コメント	改善案
					教職員	児童	保護者	教職員	児童	保護者			
1	生涯に渡って学び続けようとする子 (確かな学力)	◎対話的に高め合う授業づくりを通し、自分の意見を持ち、集団でそれを高めあう力を育てる。 ○相手意識をもって聞く、話す力を育てる。	◎説明レベルを活用・意識した指導 ○ペア・グループなど学習形態を工夫し、児童のかかわりを生かした授業 ○コミュニケーション力の育成に関する職員研修	「聞き方名人」「話し方名人」を意識して、対話的な学習を行っているか。	93%	86%	78%	100%	88%	79%	●設問2と3について、保護者評価がしにくい面があったため、今年度調査から他の設問と合わせることにした。 ○設問1の「対話的な学習」について、教員の授業改善も図られ概ね肯定的な評価が高い。保護者記述に「人数が少ない分、1人1人の発言や発表の場が多く、いい経験ができています。」とあり、少人数での学びのよさもうかがえる。 △設問4の「家庭学習」について、肯定的な評価が低い状況にある。与えられた課題(宿題)は丁寧にこなすことはできるが、自ら進んで課題を見つけて取り組むところまでは到達していない。自学ノートやタブレットドリルなどのより一層の活用を促し、指導の個別化、学習の個性化が図られるようにしていく必要がある。	・設問1, 2, 4は、良好な評価結果である。今後も重点目標に向かって取り組んでほしい。 ・設問3は、保護者評価が低い。家庭学習への取組を改善する必要がある。 ・タブレットを活用した授業が進んでいる。調べ学習も早くできるので、図書館利用が少なくなっていないか。本に触れることも大切である。インターネットの情報には善し悪しがある。自分に都合のよい情報のみを選択している。メディアより紙面が良い時もある。新聞を利用すると良い。情報を得る方法を考えたい。また、ノートに書く時間が減っていることを危惧している。	・引き続き、学級の実態に応じたペアやグループなどの学習形態の工夫していく。 ・面談や学級懇談の時に、子どもとのコミュニケーションのポイントを伝えておく。
◎それぞれの教科に応じて学ぶ楽しさを味わえる授業づくりを通し、自己教育力を育成する。		◎教科の特性を踏まえ、それを学ぶ楽しさを伝える授業づくり ○操作活動、体験活動等、児童の実態に合った活動の導入	主体的に学習に取り組んでいるか。	100%	86%		100%	86%	69%	・児童が学習の楽しさを感じながら主体的に取り組めるように、児童の実態にあった授業づくりを行う。			
○学習用具の準備・家庭学習の習慣化を図るとともに、ICTの活用を進め、学習への主体性を育てる。		○「元気アップ週間」による、家庭との連携強化 ○学習用具の用意や学習時の姿勢など、学習に臨む態度の重視	家庭学習(宿題や自学、タブレット学習等)を忘れずに行っているか。	71%	75%	60%	92%	82%	64%	・課題への取り組みについては継続する。 ・タブレットドリルを活用した課題を出す。			
◎ICTの活用や図書館の活用を通して、情報活用力を育てる。		◎教科での図書やICTの活用を通して、必要な情報を収集・整理し、学習のまとめや発信などに取り組む。	教科学習において、必要な情報を図書・ICTを活用して収集し、それを活用してまとめに生かしているか。	93%	70%		93%	62%	68%	・今年度活用した事例をまとめ、次年度以降、活用の参考にしていけるようにする。			
5	自らの健康に気を配り、心も体もたくましい子 (健やかな心身)	◎食の指導やお弁当の日を通して、食に対して自発的に行動できる児童を育てる。	○系統的な食の指導 ○お弁当の日の実践 ○家庭科での栄養指導	食の指導を通して食事の大切さを意識して、日々の生活を送っているか。(弁当作り、給食活動)	100%	90%	75%	92%	97%	79%	○設問5について、お弁当の日の取組や栄養教諭による食の学習などをとおして、食を通じて健康に気を付ける意識が高まってきている。 ◇設問6について、教職員、児童は肯定的な評価が高い。しかし、今年度も、4校園元気アップ運動を生かした規則正しい生活について保護者の評価が低くなってきている。この期間のみならず日頃から生活習慣についての啓発が必要である。 ○設問7について、重点的に取り組んだ「あいさつ名人」について高い評価である。今後さらに自分から進んであいさつができる児童を育成したい。 ●設問9について、今年度、教職員はデジタルシティズンシップの取組について、児童保護者はデジタルメディアについての評価と変更した。その結果、教職員の取組評価は大きく伸びたが、保護者の評価が低いままである。家庭でのメディアとの付き合い方についても、より一層連携を図りながら進めていく必要がある。	・設問6, 9について、規則正しい生活を送るためには、メディアの使い方との関係が深い。保護者がもっとメディアの使い方を子どもたちに指導していく必要があると考える。そのためには、メディアの使い過ぎによる人体の影響や弊害などもっと勉強していく必要がある。 ・家庭でのメディアが課題である。利用している大人が、子どもに規制するのは難しい。学校が子どもへ指導するだけでは不十分であり、親への指導はどうしたらよいか。学校からは発信、啓発してほしい。犯罪に巻き込まれないように、大人も子どもも知識も必要である。 ・栄養教諭と連携した取組ができておりがたい。掛合小学校はとて栄養教諭が出やすい環境である。栄養教諭を活用しようとする気持ちがありがたい。引き続き取り組んでほしい。 ・にこにこデーについて、恥ずかしそうな子もいるが、大きな声でしてくれる子どももいる。	・計画的な食の指導によって、食の知識や感謝の気持ちが高まっているため、今後も継続した指導を行っていく。 ・生活習慣の定着に向けて、事前・事後指導を行っていく。 ・どんな場面でも自分からあいさつができるように、継続して指導していく。 ・日頃から身の周りの整理整頓をすることによる過ごしやすさを伝えていく。 ・児童の実態に合わせて年間計画を改善する。デジタルシティズンシップ教育を計画的に実施し、デジタルメディアとの適切な付き合い方を指導していく。
◎基本的生活習慣確立の取組を通し、めあてをもち最後までやり抜く児童を育てる。		○掛合町4校園での「元気アップ週間」を活かした、生活習慣の確立の取組	規則正しい生活を心がけ、実践しているか。	100%	83%	55%	100%	87%	66%				
○生活目標に設定し、年間を通してのあいさつ運動の取組			「あいさつ名人」でのあいさつ、返事をしているか。	94%	86%	80%	87%	90%	73%				
○物を大切に、掃除をする等、環境に配慮する意識と態度の育成			物を大切にする、整理整頓するなど、環境に配慮しようとしているか。	88%	83%		64%	85%	49%				
◎メディアとの接し方、家庭での過ごし方についての指導			メディアの使い方について考え、めあてを決めて実行しているか。	87%	74%	49%	40%	79%	47%				
10	明るく思いやりのある子 (豊かな人間性)	◎ふるさと学習を推進し、地域への愛着と誇り、自己肯定感を育てる。	◎地域の教育資源を生かした、計画的、積極的な学習活動の実践	ふるさと教育を通して、ふるさとに興味をもったり、ふるさとがより好きになったりしたか。	100%	93%	71%	100%	97%	77%	○設問10について、高い評価であったことから、ふるさと学習を行ってきた成果が表れている。 ○設問12、13について、周りの人の気持ちを考えた行動ができている割合が高く、学級での活動や委員会活動においても、集団の一員としてよりよい生活をめざす姿が見られている。	・設問10～13については、全体的に高い評価になっている。今後も積極的に行ってほしい。ただ、設問11の児童の評価が少し低く感じる。もっと目標がもてるように助言などをしていく必要がある。 ・ふるさと掛合の活性化をどうしていくか。そのために小学校で基礎的な部分である、地域を知ること力を入れてほしい。中学校と連携していることもとてもよい。今後も重点項目としてやってほしい。親が伝えきれていないものを学校が発掘してくれている。自主組織との連携がある。掛合のよさを知ったり、地域創生にもつながる。	・今後も地域の人・もの・こととのつながりを大事にして、ふるさと学習を推進していきたい。地域コーディネーターと連携して進めていく。 ・年度末にキャリアパスポートを家庭に持ち帰り家庭で話題にもらい、児童に励ましのコメントをもらう。年度末に必ず、回収しておく。 ・年間2回のほかほか週間を継続すると共に、年間を通して指導を重ねていく。 ・今後も継続して集団のために自分の役割を果たそうとする態度を指導する。
◎夢発見プログラムの推進により、未来に向かってたくましく生き抜く社会人を育成する。		◎キャリアパスポートの活用	自分の良さを知り、将来の夢や目標を持っているか。	92%	77%	73%	92%	76%	78%				
◎集団のために活動したりすることを通して、集団の一員としての自覚を高め、よりよい生活をめざして工夫する力や実践力を育成する。		○生活の中の課題について子どもが友だちと共に解決する取組 ○委員会活動、係活動、掃除等、自分の役割をきちんと果たし、集団のために工夫する実践力の育成	友だちの気持ちを考えた行動ができているか。 自治的・実践的な活動への意欲と態度が育っているか。	100%	87%	76%	100%	88%	86%				
				100%	94%		93%	97%	73%				

評価計画				自己評価						学校関係者評価	改善計画		
No.	めざす子ども像	重点目標	取組の重点項目	評価指標	R6アンケート			R5アンケート			結果と課題の説明	コメント	改善案
					教職員	児童	保護者	教職員	児童	保護者			
14	居心地の良い学校の基盤・家と庭なるとも人権に・特別支援学校づくり、生徒指導の推進、地	◎人権同和教育を全教育活動の基底に据える。 ◎個に応じた特別支援教育を推進する。 ◎理解教育の充実を図る。	◎学習支援員や、関係機関等と連携した、個別支援の取組 ◎互いに認め合うための理解学習の実践	個に応じた指導により、一人一人を大切にされた教育環境が作られているか。	100%	75%	84%	100%	75%	83%	◇設問14、15、16について、昨年に引き続き、高い評価である。学校教育目標、めざす学校像を実現するための基盤が定着しつつある。しかし、設問14について、児童の肯定的評価が比較的低い。教育相談期間だけでなく、普段から相談できる雰囲気づくりをさらにしていく必要がある。 ○学校だより、学校HP、学級だより等で情報発信をするとともに面談等を活用して児童の学校の様子を伝えることができた。また、学校発出文書を紙媒体からメール送信に変更したことで、確実に保護者が確認できている高評価をいただいている。	・設問14～19について、高い評価で持続している。今後も積極的に行ってほしい。 ・学校からのたより等のメール発信はよい。受信者は複数できるのか。祖父母世代も紙があると一読することもあった。特に、子どもの写真が載っているものは、紙だと家中で見ることができる。 ・メール配信だと確実に保護者に届くが、見られる者が限られる。紙媒体だと、家にあるとみんなが見ることができるということもある。 ・市からも紙にかかる費用の削減も言われている現状もある。	・来年度も引き続き理解教育を行い、一人一人を大切に指導を行っていく。 ・タブレットでの基礎学力の向上を含め、今後も学習意欲を高め、落ち着いて学習できる環境づくりを全教職員で取り組んでいく。 ・地域の教育資源を活用した各学年の取組を見える化(特色ある教育実践のカリキュラム)したものを年度始めと年度末に見直しや振り返りをしながら次年度に活かしていく。 ・情報発信については、今後も個人情報の扱いに十分配慮しながら必要な情報を発信していく。 ・学校の発出文書、学級だより等は、可能な限りメール送信とし、保護者が直接受け取れるようにする。 ・避難訓練や登下校指導、安全教育等とおして、児童が自ら危険を予測し、回避する能力を培っていく。
15		◎学習環境の整備を図る。	◎学習意欲を高める環境づくり ○心を潤す掲示や花壇・学校園等の環境美化 ○心あたたまる掲示物づくり	学習意欲を高め、落ち着いて学習できる環境が整えられているか。	100%	95%	91%	100%	95%	86%			
16		◎地域の教育力を活かした学校教育活動を推進する。	◎地域CNとの連携 ○多様な価値観に触れる場と機会の創出のためのゲストティーチャー・活動ボランティアの開拓と関係者との連携 ○学校施設の積極的開放	地域の教育力が学習に効果的に活かされているか。	100%	91%	95%	100%	92%	88%			
17		◎開かれた学校、開かれた教育課程づくりを推進する。 ◎地域の願いを踏まえた学校経営を行う。	◎学校関係者評価の実施 ○情報の発信と受信(「ましましず」学級だより、HP、学級懇談、家庭訪問、地区懇談会、個人面談等) ○適切な教材選定・保護者負担軽減	情報発信が十分にされ、保護者や地域の声が還元される機会を設けているか。 適切な教材選定を行い、保護者負担軽減に努めているか。	100%		93%	100%		89%			
18			◎安全・安心な環境づくりに努める。	◎危険予知・回避能力の向上を図る安全教育の推進 ○安全点検・修繕の実施	安全・安心・快適な教育環境を児童とともに作り、維持しようとしているか。	100%	93%	91%	100%	98%			
19													
20	協働する教職員集団	◎教職員の働き方改革を推進し、働きやすい環境づくりを進める。 ◎教職員の資質向上を図り、より質の高い教育活動を提供する。 ◎一体感を醸成し、居心地の良い職場環境を創造する。	◎勤務時間や健康管理(ワーク・ライフ・バランス) ○計画的・効率的な職員会議運営や職員研修 ○職員の行動(取組)目標の重点化と視覚化 ○「子どもを語る会」の持ち方の工夫(時間) ○PTAと連携した研修会の実施	働き方改革を進め、勤務時間・健康管理を意識し、必要な業務に時間をかけられるようにしているか。 教職員の資質向上を図るための研修が、計画的に実施されているか。	100%			93%			○設問20について、働き方改革、研修等高い評価を得ている。勤務時間の見直し、通知表の前期後期制の導入、デジタル化などの取組が高評価につながっている。そのことから、教職員間で協力的な雰囲気があり、ゆとりをもって児童へかかわることができている。 ○設問23について、研究部を中心に算数を重点として年間をととして研修する仕組みを構築している。	・教職員の働き方改革については、今後も継続して行ってほしい。保護者としてもなるべく協力していく考えでおります。 ・働き方改革についてはよいのではないかと。先生方も気持ちに余裕ができる。 ・掛合はバスが2便あり、とても手厚くしてもらっている。 ・通知表を前期・後期制にしたことで生じるデメリットはあるか。	・児童も教職員にとっても居心地のよい学校となるように、教育課程の見直しを図る。
21					100%			100%					

※アンケートにおけるパーセンテージは、肯定的な回答(「そう思う」「だいたいそう思う」)の割合を示す。